

平成25年10月4日

尾張旭市総合計画審議会第1部会 報告 (保健・医療・福祉、教育・生涯学習)

1 開催日及び会議概要

(1) 第1回

ア 開催日 平成25年7月18日(木) 14:00~16:10

イ 会議概要

(ア) 基本構想(案)について

(イ) 政策1(施策1-1から施策1-4まで)について

(2) 第2回

ア 開催日 平成25年8月20日(火) 14:00~16:00

イ 会議概要

(ア) 政策1(施策1-5及び施策1-6)について

(イ) 政策2について

(3) 第3回

ア 開催日 平成25年8月27日(火) 14:00~15:25

イ 会議概要

(ア) 基本構想(案)について(政策の大綱)

(イ) 部会のまとめについて

- ・各回とも、活発に審議が行われ、各委員から意見や提案をいただきました。それらの意見や提案の概要は、別紙のとおりです。

2 部会総括

- ・当部会の審議範囲について、大幅な変更が必要であるという意見はありませんでした。
- ・当部会では、計画人口の実現に向けて、子育て世代の流入や定住を促進するためには、取り組みの具体策を記載するなど市としての意気込みを出していくべきという意見が出されました。これらのことが総合計画書から読み取れるような記載を検討してください。
- ・部会を通して委員から出された意見や提案に対して、市は、前向きに取り組んでください。

総合計画審議会第1部会 概要

(保健・医療・福祉、教育・生涯学習)

1 基本構想（案）について

(1) 将来都市像について

- 将来の都市像が長い。一番大切な理念に当たるので健康都市のように短くした方が良い。
- 健康都市が浸透しているから、健康都市を大きく取り上げた方が良い。
- 高齢化社会を迎えるにあたっては支えあうことが必要で、健康という概念は元気あふれるに含まれ、緑も含まれており、十分に議論されて原案が作成されたと思う。
- 都市像に「尾張旭」が入っていないと、どこの町でも使える都市像になってしまうので、入っているのが良い。
- 理念は変わらないはずなので、都市像を変えることは疑問。
- 新しい都市像を作ったということでチャレンジしているのが良く分かる。
- この都市像には、公園都市も健康都市も含まれており、「住みよいまち尾張旭」が集約した結果のように感じる。

(2) 計画人口について

- 人口を増やすためには、ハード面の整備よりも、若い世代の人達が住みつけるような魅力ある施策が必要である。
- 今後高齢化が進むなか、計画人口のうち高齢者の割合がどのように推移していくかを押さえておく必要がある。

(3) 土地利用構想について

- 土地利用について、総合計画（案）と都市計画マスタープランの間に差異がある。同じ市として政策を進めていく以上、両計画の整合を取る必要がある。

(4) 政策の大綱について

ア 政策1について

- 政策の課題にのみ「治療」という表現が用いられており、他は「医療」となっているため、表現を統一したほうが良い。
- 「若い世代が不安なく子育てができること」は必要だが、他市町と比べて、さらに力を入れて取り組む部分の記載が無いといけないと思う。
- 若い世代のかたが、住んでみたい・住み続けていたいと思えるような施策がある魅力あるまちの実現に結びつく記載が必要ではないかと思う。

イ 政策2について

- 市の教育関係機関の守備範囲のことしか拾いきれていないと感じるので、高等教育機関との連携などを記載してはどうか。
- 高齢者の生きがいつくりとボランティア活動の活性化、生涯学習の推進は、重なる部分もあり、連携が大切であると思う。
- 次代を担う人材の育成に努めるという記載より、将来の尾張旭市を背負うといった記載にする方が、尾張旭市に将来も住み続けたいという想いも生まれるのではないか。

2 政策1（保健・医療・福祉）について

(1) 施策1-1「健康づくりの推進」

- あたまの元気まるは、非常に良い取り組みである。ほかにも他市で実施していない新たな取り組みを、総合計画に取り入れていく姿勢が欲しい。
- 健康寿命が、愛知県などと数値の出し方が一致していないように思う。

(2) 施策1-2「地域医療・福祉医療の推進」

- 市民が安心して医療機関を利用し、医療費が低くなるのが理想だが、そうでないならば、そのギャップを埋める手立てを考える必要がある。
- 子ども医療の拡大により、安心して医療が受けられるのは良いが、その分気軽に受けるようになってしまい、医療費が高くなり、本当に医療が必要な方が適切な医療を受けられない状況になっているのではないかという点を危惧する。
- 必要なときには医療を受け、健康増進の取り組みによって不必要な医療費は縮減していくことが必要である。
- 医療と健康づくりの関連性が読み取れない。他の施策においても同様なので、他の施策との関連性について少しでも記載した方が良い。

(3) 施策1-3「子育て支援の推進」

- 人口を伸ばしていくからには、子育て支援は手を抜くことができない施策である。
- 女性が働きながら子育てできる環境が整っていないと、そういった世代が他市に流出する。この分野は大切なのでアンケート結果などの分析が必要である。

(4) 施策1-4「高齢者福祉の推進」

- 生きがいを感じるということは非常に重要である。具体的に高齢者がどのような生きがいを感じているか知りたい。
- 高齢者でも元気な方は働きたいと思っている。そういった方への就労支援を行うことで、雇用の創出、生きがいつくり、健康増進につながる。
- 高齢者の生きがいつくりは重要で、これからは趣味の活動ばかりを進め

- るのではなく、生産活動に携わっていただく方を増やしていく必要がある。
- 団塊の世代が高齢化するなかで、新しい価値観を持った高齢者が増えてきており、こういった方々が活躍できる場を地域に作る必要がある。

(5) 施策 1-5 「障がい者福祉の推進」

- 障がい者のかたのケアホームやグループホームが、市内に 2 か所では少ないと思う。

(6) 施策 1-6 「地域福祉の推進」

- 実際に活動を行っている校区社会福祉協議会の会員数を成果指標とした方が良い。
- 時間に余裕のある高齢者で何かやりたいという方を一元的に集め、活動を紹介するような取り組みを実施してはどうか。例えば、ジュニアリーダーズクラブでのシニア版をつくるなど、高齢者に活動の場や一緒に考える場を作ると良い。
- 生活保護世帯数が増加していることと自立する世帯数が増えていないことを、一方という記載でつなぐことは適切ではない。

3 政策 2（教育・生涯学習）について

(1) 施策 2-1 「豊かな心・健やかな体を育む教育の推進」

- 学校給食におけるアレルギー対策について記載した方が良い。

(2) 施策 2-2 「確かな学力を育む教育の推進」

- キャリア教育を実施している県内自治体があり、保護者の関心も高いので、特色ある学校づくりの推進の中で、具体的な記載をした方が良い。

(3) 施策 2-3 「総合的な教育連携の推進」

- 塾に行く比率は高まってきており、無視することはできないと思うので、塾に関する記載が必要である。

(4) 施策 2-4 「生涯学習の振興」

- 「市民の生涯学習活動の中で、行政関係の主催事業が貢献しています。」とあるが、これからも行政主催の事業をこれまで以上に積極的に実施していくと捉えられてしまうので表現を見直した方が良い。
- 生涯学習は、生活が豊かになってくると重要になる施策であり、高齢者が増えていることから、充実が必要である。

(5) 施策 2-5 「文化の継承と振興」

- 伝統文化を絶えさせてはいけないので、芸術文化を区別して、対策を考える必要がある。

(6) 施策 2-6 「スポーツの振興」

- スポーツ施設・設備の充足度を高めるため、尾張旭市民プールをリニューアルし、健康増進の取り組みを安価に取り組むことができると良い。
- 財政状況などを考えると、施設の建設はなかなか難しい状況だと思う。
- プールや体育館などの体育施設を持つ市内の学校や民間事業者に、休みの日に貸していただけるような交渉をしてはどうか。